

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495400085	事業の開始年月日	平成20年3月1日
		指定年月日	平成20年3月1日
法人名	有限会社ノベライズ社		
事業所名	グループホームたま		
所在地	(214-0021) 川崎市多摩区宿河原6-30-25		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成26年9月8日	評価結果 市町村受理日	平成26年12月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp/Details.aspx?IGNO=ST1495400085&SVCD=320&THNO=14130>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりによりそい、その人らしい暮らしが送れるように支援しています。日々の暮らしの中で家庭的な雰囲気を大切に、出来る事をやっていただきながら、安心・安全にそして楽しく暮らしていただけるよう心がけています。またホーム内で過ごすだけでなく、買い物や散歩など出来る限り外出できるように支援しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成26年10月10日	評価機関 評価決定日	平成26年11月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

JR南武線「久地」駅下車、新川沿いに歩いて約5分の所にあります。鉄骨造り4階建てマンションの1、2階がグループホームです。周りは畑も点在する住宅街で、交通量も少なく、目の前に鯉が生息する新川もあります。南向きで日当たりがとてもよく、玄関前のベンチは日向ぼっこや近隣の交流の場となっています。

<優れている点>

食事に力を入れています。献立は職員と利用者で毎日考えながら決めて、一緒に買い物に出掛けています。料理も利用者が台所に並んで包丁を使用し、野菜を切ったり皮むきをし、出来上がったら手分けして盛り付け、配膳をしています。一汁三菜を心がけ、食器も陶器やガラス製で家庭と同じものを使用することにこだわっています。食事もみな自由に行い、食べ終わってからの後片づけも、利用者自身が鍋釜に至るまで食器洗いをしています。職員が見守りながら、利用者の持てる力を最大限に引き出して、生き甲斐にもつなげており、グループホームの基本である共同生活の場を利用者が楽しめるよう工夫しています。廊下は吹き抜けになっており、2階にいても1階の気配が感じられ、おいしそうな食事の匂いなども漂い、共有空間はあたたかな生活感を感じられます。

<工夫点>

災害時などの停電の際も電気が使えるように、ガソリンで自家発電した際の電気を廊下など数ヶ所に設置しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームたま
ユニット名	空

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ユニットの理念を玄関に掲げている。理念をミーティングなどで振り返るように心がけている。新人職員には理念・方針の学習を行っている。	職員が考えた各ユニット毎の理念があり、それぞれ玄関の目につくところに掲示しています。利用者を大切にし、職員の心のよりどころになるような理念で、ミーティング時に確認をしています。理念を基に職員は日々のケアに努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会への参加。近隣の保育園や地域との交流を増やすことを心がけている。買い物や散歩など近隣への外出時は挨拶等、地域の方とのコミュニケーションをとるよう心がけている。	買い物や散歩の時などには近所の方へ必ずあいさつをしています。最近では近隣の方の施設への認知度も上がり、施設の祭りで一緒に花火をしたり、和やかな交流をしています。近くの保育園とも継続的に交流があり、利用者にも喜ばれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々と交流がある時は、積極的にコミュニケーションをとるよう努めている。近隣の学校より実習生の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日々の生活の様子を報告。ご家族の意見・要望などを伺い、日々のケアに活かし、サービス向上に努めている。地域の方も参加しやすいよう努めている。	運営推進会議は去年は年3回行い、今年からは年4回行う予定となっています。利用者家族も参加し、施設の活動報告の後、出席者の意見や要望を聞いて、さらなるサービス向上に活かしています。行政などの出席しやすい平日にも開催することを検討しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	多摩区グループホーム意見交換会などに参加。協力関係を築けるよう努めていく。	川崎市の集団指導講習会や、介護保険課主催の多摩区グループホーム意見交換会などに必ず出席し、市や区と協力関係を築くよう努めています。消防署と連携して年2回消防訓練に取り組んでいます。近くにある交番とも信頼関係が出来ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全ての職員は身体拘束をしないケアに取り組んでおり、理解している。ミーティングや申し送り時などにケアの振り返りを行っている。	入職時に勉強会を行い、身体拘束をしないケアの理解を深めています。ユニット会議でも取り上げ、事例検討をしています。職員にアンケートを実施し、自分のケアの向上に役立てたり、管理者が全体を把握する助けにしています。昼間、玄関や窓の施錠は行っていません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全ての職員は虐待防止法を理解し、周知を徹底している。 新人職員には、虐待防止の研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、勉強会への参加等、全職員が理解できるよう学ぶ機会を持ち、活用できるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に十分な説明を行い、不安や疑問が残らないような説明を心がけている。また疑問や不安な点が出た時点で話し合いを行い、納得いただけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者やご家族からの要望などは、迅速に対応をするよう心掛けている。 運営推進会議での報告は勿論、来所時、電話などで意見、要望をいただく機会を設けている。	家族が来所した時には、こちらから声掛けをしたり、電話やメールなどでも広く意見を聞くよう努めています。家族から、毎日のバイタルも含めた施設での様子を毎月報告してほしいという要望が出たので、希望に添うように検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り時等、日々職員間でコミュニケーションを図り、お互いの意見や提案を聞くよう心がけている。	管理者は、日々意見を言いやすい雰囲気作りに努めています。理念にも掲げているように、職員も疑問や提案あれば、すぐに意見を言える環境にあります。衛生面、特にノロウイルスなどの感染症対策について、職員の意見が取り入れられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務状況は把握している。向上心を持って働けるよう、環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修や外部研修へ参加するよう働きかけている。学んだ事はトレーニングを行いながら、職員間で実践に活かすケアを行うよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	日本認知症グループホーム協会、神奈川県グループホーム連絡協議会、災害支援法人ネットワーク、多摩区グループホーム意見交換会などに参加している。今後も交流を増やしていく。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の思い、要望に耳を傾け、安心できるよう心がけた関係作りに努めている。 ご家族にもお話を伺い、さらに安心できるよう個々に合った関わりを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	重要事項説明書の内容を事前に丁寧に説明し、ホーム利用に際しての疑問や不安の解消に努めている。入居前・入居後とも要望などその都度連絡を取り、情報交換を行いながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談時に要望を伺い、ご家族と連携をとりながら、生活においてあらゆる面にて支援することを見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人ひとりの生活状況を理解し、料理・洗濯・掃除などできる範囲でやっていただきながら、お手伝いさせていただくという考えで共に暮らす者同士の関係を築いている。職員は声かけや場面づくりを工夫している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には来所時または電話にてご本人の様子をお伝えしている。ご家族との情報交換の機会を増やし支えていく関係をさらに築いていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。知人や親戚の方との外食や散歩等、一緒に過ごす時間を大切にさせていただくための支援を行っている。	家族や親戚、友人や知人、お稽古ごとの関係者など、たくさんの方が施設に訪ねてきています。これらの方と外食や外泊、旅行に出掛けることもあり、これまで大切にしてきた馴染みの関係を継続できるように支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士がなじみの関係を築けるよう配慮し、孤立しないような支援を心がけている。職員が間に入り、コミュニケーションが円滑になるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	行事のお知らせやホームの近況をお知らせしている。 必要に応じて相談や支援を行うよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の要望・意向を伺い、職員間で共有している。 困難な場合はご家族から情報をいただきながら、少しでもご本人の希望に沿うよう努めている。	意思表示が困難な利用者には、表情や仕草から推し量ったり、二者択一で選んでもらったり、家族からの情報などで検討しています。利用者の一人ひとりの思いや意向を把握したら、職員間で情報共有をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族より生活歴や生活環境を伺い、把握するように努めている。 ご本人が生活しやすい環境づくりを工夫していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出来ること・出来ない事を職員間で確認をしている。 細かく生活記録をつけ、一日の過ごし方や心身状態を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族から要望を伺い、居室担当者、計画作成担当者が立案し、ケアカンファレンス会議を行い、介護計画を作成している。	利用者、家族の要望を聞き、居室担当者と話し合いをします。さらにユニット会議で話し合い、医療関係者の意見も聞き、計画担当者が介護計画を3ヶ月に1回見直しています。変化があればその都度対応しています。モニタリングも3ヶ月に1回実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や気づき、変化を記録し、職員間で情報を共有している。介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々変化する状況や要望などに臨機応変に支援できるよう努めている。地域との交流に努めていく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の保育園との交流、町内会への参加、消防署との防災訓練など、地域との交流を持ちながら豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診についてはご本人、ご家族の希望を伺い対応するように努めている。また協力医による隔週の往診、電話での指示、助言をいただいている。近隣の医療機関とも関係を構築している。	利用者や家族の希望を聞きながら、必要な医療を受診できるように体制を整えています。協力医や歯科治療についても定期的な往診があり、連携しながら利用者一人ひとりに合わせて支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期の訪問時に利用者の状況や様子、変化を相談し受診の有無、対応を検討している。24時間オンコール体制で助言・指示などをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医、その他の医療機関とご家族を含め、情報交換を密に行っている。入院中は職員は病院を訪ね、病院関係者と情報交換をするように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	早い段階より本人・家族と協力医を含めて話し合いを行っている。ホームのできることを説明し、出来る範囲で最適な対応を行うよう心掛けている。	終末期や看取りについて関係者全員で取り組み、方針を決めながら支援をしています。本人や家族とも早い段階から話し合いを行っています。管理者と主任で最期まで看取ることについて検討をし、スタッフとも何度も会議を持ちながらチームで支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルの作成、研修の実施、連絡網の作成などで緊急時に備えている。事故が発生した場合は事故報告書を作成し、原因・反省・改善点などを職員間で共有。再発防止の為、事故の意識が薄れない為に適宜話をしていく心掛けをする。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署と連携し防災訓練を年2回行っている。法人では災害支援ネットワークに参加している。地域との協力体制は今後も課題の為、継続して強化に努めていく。	防災訓練は、年に2回地域の消防署立ち合いのもと実施しています。地域のハザードマップにて、付近の川の増水時についても把握し、利用者の避難の仕方を決めています。	備蓄について、法人本部と検討されていますが、備蓄品のリスト管理化も含め、備蓄量の再点検も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重した声かけ、関わりを行っている。プライバシーが守られるよう、スタッフには周知徹底している。	利用者ひとりひとりの人格を尊重しながら聞き取りや声掛けをしています。カルテなどの個人情報には鍵のかかる場所に保管しています。チラシを利用して小物を作ったり、疲れた場合には、部屋で自由に休息するなど、一人ひとりのプライバシーにも配慮した対応をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いや希望を表せる環境作り、状況によっては一緒に考えるなどの働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの希望や思いを尊重し、個々のペースで暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類はご本人が選ばれたもの着ていただいている。散髪は希望があれば近隣の美容室に行かれたり、訪問美容を利用している。ご本人、ご家族と相談しながらご本人らしく過ごせるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々の会話の中で好みの食べ物や味を把握し、食事に活かせるように心がけている。また一緒に買い物に行き食材を選んだり、外食に出掛けたりすることで食事が楽しみになるように心がけている。	利用者と一緒に日々の食事のメニューを決めています。食材もチラシを見ながら利用者と職員で買い出しに出掛けています。外食も和食からファーストフードなど利用者の希望に合わせて出掛け、出前をとることもあります。小旅行では深大寺そばの一番おいしい店を探してから出掛けて行くなど、食事を楽しめるよう工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立表を作成し、栄養バランス、献立の重複がないよう配慮している。また、嚥下の低下した利用者に関しては個別にミキサー食、おかゆの提供、トロミ付けをした飲料水を提供している。水分摂取表を活用し、十分な水分が確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	義歯は夜間に洗剤で消毒、口腔ケアが困難な利用者には、ケアスポンジでの口腔ケアを行っている。希望される入居者は週に一回に歯科往診を受診している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンをスタッフで共有し、支援を行っている。	職員全体での意見交換や検討の結果、日中4回の排泄を基本としていますが、アセスメントしながらそれぞれ回数を増やしています。水分補給は1ℓとして、ゼリーなども提供しながら工夫しています。夏場は特に熱中症にならないよう配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	消化の良い食事、繊維質のものや水分を多くとっていただくよう工夫している 便秘が顕著場合は医師に相談し指示を得ている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	午後を入浴時間としており、希望や体調に応じて入浴していただいている。また入浴剤等を使用して、入浴時間をリラックスして過ごせるよう工夫している。介助が必要な方には安全に入浴していただけるように支援している。	希望や状態に合わせて週3回程の入浴を基本として支援しています。ゆったりと入浴できるよう時間にも配慮しています。入浴拒否が強い場合も、興味を引くように誘導し、1日でも多く入浴できるよう職員同士で工夫しながら支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中に適度な運動が出来るよう働きかけている。スタッフと一緒に体操をしたり、ホーム内を歩いたり工夫をしている。不眠が顕著な場合は医師に相談し指示を得ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の用量、用法をファイリングして、職員全員が周知し、変更時には申し送りにて伝達している。服薬後はチェック用紙に記入し、空の袋も確認して飲み忘れのないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の生活の中で掃除や洗濯、買い物、散歩などその時の利用者の状況に応じて行っている。ご本人やご家族より趣味や嗜好を伺い、気分転換できるよう支援している。利用者同士の交流も出来るよう工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や外食、買い物などに出かけている。歩行が困難な利用者も車椅子を使用して外出している。ご家族との外泊の機会もあり、出来る限り外出ができるよう協力しながら取り組んでいる。	毎日食材を購入するため日常的に外出をしています。施設前の川沿いを散歩したり体操をして、気分転換をしながら季節を感じられるよう配慮しています。玄関前の小道は幅広く、ほとんど車の往来はありません。安全に配慮しながら見守り、支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には事務所管理。希望により出入金し、出納帳を記入し月末にご家族に確認していただいている。ご自分で管理できる方はご家族の了承を得て管理していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙のやり取りは希望があれば対応している。ご本人が安心して過ごせるよう心掛けている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明、温度、音などは配慮している。テレビの音には配慮し、聴力が低下している人は職員が内容を説明したり、字幕表示などの工夫をしている。エントランスには季節の飾りを行っている。	1階と2階の玄関は別ですが、中は行き来出来る作りになっています。迷った場合もお茶を飲んで帰るといった気分転換にもなっているようです。両ユニットとも吹き抜けで、自然のあたたかい陽射しや明るさを活用しながら居心地の良い空間づくりをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング内は利用者同士で過ごせるようテーブルなどを配置し、エントランスにはソファ、玄関前にはベンチを置き、思い思いに過ごせるよう工夫していく。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人が愛用していた家具などを配置し、居心地の良い居室になるよう工夫している。圧迫感や危険な配置はないか日々確認している。	利用者は馴染みの品を持ち込み、一人ひとりに合わせて居心地よく過ごせる居室になるよう配慮しています。施設の南側には川と府中街道があり、太陽の光を遮るものはありません。洗濯物や布団がいつでも気持ちよく干すことができる快適な環境となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや居室の位置をわかりやすくする為に、表札を使用している。安全かつ自立した生活が送れるように支援していく。		

事業所名	グループホームたま
ユニット名	虹

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホームの玄関にユニットの理念を掲げている。その理念をスタッフ同士共有しミーティング等で振り返るように心がけている。 採用時研修で理念、方針の学習を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会への参加。近隣の保育園との交流や民生委員、地域包括センターとの交流を心掛けている。買い物や散歩の時は挨拶等、地域の方とのコミュニケーションをとるように心がけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の方々には当施設の位置づけもいただいている。 近隣のスーパーでは顔を覚えていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日々の生活の様子を報告、ご家族等の意見を伺い日々のケアに活かしている。ご指摘があった事については改善し、サービス向上に努めている。 今後は地域の方にも参加していただけるよう働きかけていく。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	多摩区グループホーム意見交換会に参加し、協力関係を築けるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全ての職員に身体拘束をしないケアについて教育・指導を行いケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	全ての職員は虐待防止法を理解し、周知を徹底している。 入職時に虐待防止の研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、全職員が理解できるよう学ぶ機会を持ち、活用できるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に出来る事、出来ない事を説明し、不安や疑問を尋ね、十分な説明を行い、理解、納得をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者やご家族からの意見、要望は迅速に対応するように心掛けている。 来所時や電話等でも意見、要望をいただく機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議や伝達ノートを用いて意見や提案を聞く機会を設け、反映できるよう心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務状況は把握している。 向上心を持って働けるように、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修や外部研修に積極的に参加するように働きかけている。研修で学んだ事は職員間で共有し、トレーニングを行いながら実践に活かすケアを行うよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	日本認知症グループホーム協会、神奈川県グループホーム連絡協議会、災害支援法人ネットワーク、多摩区グループホーム意見交換会に参加している。今後も勉強会等への参加を増やし、交流する機会を増やしていく。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の思い、要望に耳を傾け、安心できるよう心がけた関係作りに努めている。またご家族にもお話を伺い利用者の趣味・嗜好に沿った関わりを行えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	重要事項説明書の内容を事前に丁寧に説明し、ホーム利用に際しての疑問や不安の解消に努めている。 入居前・入居後とも要望などその都度連絡を取り情報交換を行いながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談時に要望を伺い、ご家族と連携をとりながら、生活においてあらゆる面にて支援する事を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人ひとりの生活状況を理解し、料理・洗濯・掃除等できる範囲でやっていただきながら、お手伝いさせていただくという考えで共に暮らす者同士の関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には来所時または電話にてご本人の様子を伝え、関わりを多くもてるよう支援している。ご家族との情報交換の機会を増やし支えていく関係をさらに築いていく。 またホームよりお便りをだしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人や親戚の方が来所され散歩等に行かれることもある。 ご本人が大切にしてきた関係が途切れないよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	常に利用者同士がなじみの関係を築ける様に配慮し、孤立しないように利用者を支え合えるような支援を心がけている。利用者同士の諍いには必ずスタッフが間に入り対応するよう全職員に指導している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	行事のお知らせやホームの近況をお知らせしている。 必要に応じて相談や支援を行うよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の要望・意向を把握するように努め、職員間で共有できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族より生活歴や生活環境を伺い、把握するように努めている。 ご本人が生活しやすい環境づくりを工夫していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	細かく生活記録をつけ、一日の過ごし方や心身状態を把握するよう努めている。 必要に応じて介護ベットや車いすを導入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族、ご本人から要望を伺い、居室担当者、計画作成担当者が立案し、ケアカンファレンス会議を行い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一人ひとりの小さな変化も細かく記録に記載し、申し送り時や伝達ノートにより情報を共有している。 介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々へ変化する状況や要望などに臨機応変に支援できるように努めている。 地域との交流に努めていく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の保育園との交流、町内会への参加、消防署との防災訓練等、地域との交流を持ちながら豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診についてはご本人・ご家族のご希望を伺い対応するように努めている。 また協力医による隔週の往診、電話での指示・助言をいただいている。近隣の医療機関とも関係を構築している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期の訪問時に利用者の状況や様子、変化を相談し受診の有無、対応を検討している。 24時間オンコール体制で助言・指示等をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医、その他の医療機関とご家族を含め、情報交換を密に行っている。 入院中は職員は病院を訪ね、病院関係者と情報交換をするように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	早い段階より本人・家族・協力医と話し合いを行っている。ホームで出来る事を説明し、出来る範囲で最適な対応を行うよう心がけている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルの作成、研修の実施、連絡網の作成等で緊急時に備えている。 事故が発生した場合は事故報告書を作成し、原因・反省・改善点等を職員間で共有し、事後の備えとしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署と連携し防災訓練を年2回行っている。地域との協力体制をもっと築いていくよう心掛ける。 法人では災害支援ネットワークに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重した声かけ、関わりを行っている。プライバシー保護についてはミーティングや申し送り時に職員に周知している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人が思いや希望を表わせる環境作り、なおかつ一緒に考える等の働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの希望や思いを尊重し、個々のペースで暮らせるよう支援するよう努めている。 日々の暮らしの中で、ご本人の希望等はできる限り優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類はご本人が選ばれたものを着ていただいている。お化粧品を楽しまれている方もいる。散髪はご希望があれば近隣の美容室に行ったり、訪問美容を利用している。 ご本人、ご家族と相談させていただきながら、ご本人らしく過ごせるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々の会話の中で好みの食べ物や味を把握し、食事に活かせるように心がけている。また一緒に買い物に行き食材を選んだり、外食に出かけたりすることで、食事が楽しみになるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立を確認、偏りのない栄養バランスのとれた食事を心がけている。また嚥下の低下した利用者に関しては個別にミキサー食、おかゆの提供、トロミ付けをした飲料水を提供している。水分摂取表を活用し、十分な水分が確保出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声掛けし義歯洗浄、口腔ケアを促している。口腔ケアが困難な利用者には、ケアスポンジでの口腔ケアを行っている。希望される利用者は週1回に歯科往診を受診している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりにあった支援をしている。訴えの少ない利用者にはそれぞれの排泄間隔やご本人の出すサインに気付くよう努め、可能な限りトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	消化のよい食事、繊維質の物や水分を多く取っていただくよう工夫している。便秘が顕著な場合は医師に相談し指示を得ている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	午後を入浴時間としており、希望やタイミングに応じて入浴していただいている。介助が必要な方には安全に入浴していただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	安眠ができるように、日中は適度な運動が出来るように働きかけている。不眠が顕著な場合は医師に相談し指示を得ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の用量、用法をファイリングして、職員全員が周知し、変更時には申し送りにて伝達している。服薬後はチェック用紙に記入し、空の袋も確認して飲み忘れのないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事全般、出来る方にはやっていたいっている。また、買い物・散歩・日光浴等その時の利用者の状態に合わせて行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や外食、買い物等に出掛けている。歩行が困難な利用者も車椅子等を使用し可能な範囲で散歩や外出を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には事務所で管理している。希望により出入金し、出納帳を記入し月末にご家族に確認していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望があれば、すぐに対応できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明、温度、音等は配慮している。複層住居になっており、リビングにはテーブル、椅子、テレビを置き利用者が鑑賞できる環境を整えている。エントランスやリビングには季節の飾りを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	思い思いに過ごせるような環境を工夫している。またその環境で利用者同士が会話などの接点が生まれるようスタッフも間に入り対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具はすべてご本人が使用していたものを持ち込んでいただいております、各種生活用具を自身で使える環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全に配慮しつつ、調理等の家事を行う利用者には厨房にも出入りしていただけるようにしている。トイレや居室がわかりづらくなっている入居者の為には、名札、表札等を作成し、活用している。		

平成26年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム たま

作成日： 平成26年12月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		地域とのつきあい	地域の方との交流を積極的にとるように努める	ホーム行事や避難訓練などへの参加を呼びかけ、地域の方にも参加していただけるようにする。 町内会の行事には積極的に参加する。 ホーム近隣の清掃を行い、地域に貢献する。	6ヶ月
2		災害対策	備蓄品の整備・ハザードマップの作成	備蓄品を整え、管理リストを作成する。 災害に備えて避難経路の確認、避難する際に危険と思われる場所等を把握、ハザードマップを作成する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月